

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について

鹿角市教育委員会

I 実施の状況

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) (1) 及び (2) の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 実施対象学年…小学校第6学年、中学校第3学年

3 調査の内容

- (1) 教科に関する調査
 - ・ 小学校：国語、算数、理科
 - ・ 中学校：国語、数学、理科
- (2) 児童・生徒質問調査

4 実施期日…令和7年4月17日(木)

中学校・理科、児童・生徒質問調査：オンラインで指定された日に実施

II 教科に関する調査の結果

1 教科別の状況

- ・ 小学校においては、理科は良好な結果であり、国語、算数が全国と同程度の結果であった。
- ・ 中学校においては、国語、理科が良好な結果であり、数学が全国と同程度の結果であった。

2 領域別の状況

- ・ 小学校の国語では、「書くこと」が良好であった。
- ・ 中学校の国語では、「書くこと」が良好であった。
- ・ 小学校の算数では、「データの活用」が良好であったが、「図形」「変化と関係」に課題が見られた。
- ・ 中学校の数学では、「数と式」「データの活用」が良好であった。
- ・ 小学校の理科では、「生命」を柱とする領域が非常に良好であった。
- ・ 中学校の理科では、「粒子」「地球」を柱とする領域が非常に良好であった。

III 質問紙調査の結果

- ・ 小・中学校ともに望ましい生活習慣の定着が図られ、豊かな人間性等が育まれている状況が見られる。

- ・「児童生徒の自己肯定感」については、小・中学校ともに良好な結果であった。
- ・「地域や社会への貢献」については、小・中学校ともに非常に良好な結果であった。
- ・「授業における学習用端末などのＩＣＴ機器の使用」については、小・中学校ともに非常に良好な結果であった。

※上記以外に、鹿角市教育委員会の施策と関連のある質問紙の結果については、以下のとおりである。

1 特色ある学校づくり支援事業に関する状況

- (1) 「将来の夢や目標をもっていますか。」という質問項目については、小・中学校ともに、良好な結果であった。

2 「主体的・対話的で深い学び」の視点による学習指導の改善に関する状況

- (1) 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」という質問項目については、小・中学校ともに良好な結果であった。
- (2) 「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」という質問項目については、小・中学校ともに非常に良好な結果であった。

IV 今後の市教委の施策の方向性

これまで取り組んできた施策が、概ね良好な成果につながっている。特に地域や社会への貢献については、「ふるさと・キャリア教育推進事業」や「特色ある学校づくり推進事業」、「ふるさとかづの絆プラン事業」などの継続した取組が成果として表れている。また、「ＩＣＴ活用教育事業」が充実してきたことで、児童生徒の主体的な学びへとつながってきている。これらの成果を生かして、今後も各事業のより一層の充実を図っていく。